



# 熊本市 感染症発生動向調査 速報



## ●インフルエンザB型が増えてきました●

インフルエンザが3週連続警報レベルを超えています。報告数は少し減ってきています。内訳は1141人中、A型が1050人、B型が61人、型不明が30人とB型が増えてきました。同じシーズンにA型とB型、両方感染する人もいます。引き続き感染予防に努めましょう。

### ◆小児、未成年の異常行動について

小児、未成年でインフルエンザにかかった時には異常行動が出ることがあると報告されています。

#### ＜異常行動の例＞

- ・突然立ち上がって部屋から出ようとする
- ・興奮状態となり、手を広げて部屋を駆け回り、意味のわからないことを言う
- ・興奮して窓を開けてベランダに出ようとする
- ・自宅から出て外を歩いていて、話しかけても反応しない
- ・人に襲われる感覚を覚え、外に飛び出す
- ・変なことを言い出し、泣きながら部屋の中を動き回る
- ・突然笑い出し、階段を駆け上がろうとする



インフルエンザにかかったら、抗インフルエンザウイルス薬の投与の有無にかかわらず、少なくとも2日間は、小児・未成年者を一人にしないで、容易に住居外に飛び出ないための対策をしましょう。

・玄関や全ての部屋の窓の施錠を確実に行いましょう。(内鍵、補助錠がある場合はその活用を含む。)

・ベランダに面していない部屋で寝かせましょう。

・窓に格子のある部屋で寝かせましょう。(窓に格子がある部屋がある場合)

・一戸建ての場合はできる限り1階で寝かせましょう。[厚生労働省・インフルエンザQ&Aより抜粋]

期 間		2019年 3週		2019年 4週	
		1/14～1/20		1/21～1/27 (最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		1387	55.48	1141	45.64
RSウイルス感染症		9	0.56	2	0.13
咽頭結膜熱(プール熱)		5	0.31	3	0.19
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		20	1.25	31	1.94
感染性胃腸炎		90	5.63	70	4.38
水痘(みずぼうそう)		9	0.56	7	0.44
手足口病		6	0.38	2	0.13
伝染性紅斑(りんご病)		1	0.06	4	0.25
突発性発しん		8	0.50	10	0.63
ヘルパンギーナ		0	0.00	1	0.06
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		2	0.13	2	0.13
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		13	2.60	13	2.60
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		1	0.20	1	0.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	1	0.20